

6:9 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。

6:10 彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

6:11 すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

6:12 また私は見た。子羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。太陽は毛織りの粗布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。

6:13 そして天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが大風に揺さぶられて、青い実を落とすようであった。

6:14 天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山と島は、かつてあった場所から移された。

6:15 地の王たち、高官たち、千人隊長たち、金持ちたち、力ある者たち、すべての奴隷と自由人が、洞穴と山の岩間に身を隠した。

6:16 そして、山々や岩に向かって言った。

「私たちの上に崩れ落ちて、御座に着いておられる方の御顔と、子羊の御怒りから私たちを隠してくれ。」

6:17 神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。だれがそれに耐えられよう。」

第五の封印が解かれて、殉教者のことが明かされます。信仰のゆえに殺された人々は、死んで終わりではなく、主に覚えられています。主のために苦しむことは決して無駄なことではありません。むしろ信仰者を苦しめる者の迫害こそが無駄であり、彼らはその行いゆえに報いを受けなければならないのです。

第六の封印が解かれると、恐ろしい天変地異が起こります。主に敵対する人々はあまりの苦しみのゆえに死を願い、山や岩に「崩れ落ちて… 隠してくれ」と願います。それほどに「小羊の怒り」が恐ろしいものだということです。

人のためにご自身を無にして十字架の死にまで従った方は、単に弱くて殺されたわけではありません。実はこのように恐ろしいほどの力と権威とを持ったお方なのです。そのようなさばき主が、私たちのために死んでくださったということは、驚くべきことです。主イエスの謙遜の大きさを覚えましょう。新たに感謝しましょう。そして主に愛されて守られていること、世の終わりにあっても守られることに感謝しましょう。主に赦されている者としてふさわしい歩みをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

